

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティスクール		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別学習、パソコン学習に特化している。	・個別学習では、宿題や学校のドリルを優先的に進めている。個人のレベルに合わせたプリントを用意して、苦手分野の克服と、得意分野を伸ばす取り組みを行っている。 ・パソコン学習では、独自のタイピングソフトを導入して入力練習を行っている。Adobeイラストレーターなどの専門ソフトを使用して、カリキュラムに取り組んでいる。	・個別学習では、算数、国語の教材を充実させて、個人のレベルに合わせた教材の提供を行っていく。クロスワードなど語彙力や思考力の向上が図れる取り組みを行っていく。 ・パソコン学習では、ネットリテラシーについての学習や、インターネットの情報を効率的に収集できるように、サーチ能力を身に付けていける取り組みを行っていく。
2	・個別支援計画や日々の支援について、保護者様にご理解を得られている。	・アセスメントを面談や書面で必ず行っている。 ・日々の支援で変化が見られた時は、送迎時やお迎え時に様子や気づきを保護者様に伝えるときに、相談事がある時には速やかに対応している。 ・満足を頂けるよう日々の支援に努めている。	・持続してアセスメントや面談を行い、保護者様との共通認識を図っていく。 ・日々の気づきや保護者様からの相談事について、明確な対応が出来るように支援の質を向上していく。
3	・支援の方法など職員ミーティングで共有して把握・決定することが出来ている。	・日々の支援で気になったことなど、LINEで報告を行い、翌朝の職員ミーティングで支援の方法や改善点について話し合いを行っている。	・モニタリング時期に見返し、次回の個別支援計画の策定に活かしていく。 ・職員間で個別支援計画の共通認識を深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・連絡	・学校ごとの短縮日課の下校時間が正確に把握出来ていない場合がある。学校とのスムーズな受け渡しが出来るように、下校時間については正確に把握する必要がある。 ・利用日数が少ないご家庭に、連絡、お便りの配布漏れがないようにする必要がある。	・保護者様から短縮日課のお便りを共有して頂き、下校時間の正確な把握をする。 ・利用回数が少ないご家庭には、公式LINEを活用してお便りを読んで頂いたり、郵送でやり取りを行うなど、連絡・配布を工夫していく。
2	・事業所内の住環境	・マンションの一室を使用している為、バリアフリー化や設備の拡張は難しいが、安全に通える教室作りを行う必要がある。 ・個別学習とパソコン学習の間に移動が発生してしまう。	・設備の拡張などハード面の改善は難しいが、動線の確保や整理整頓を行い、死角が生まれないように物を配置する。 ・マンションの住人に迷惑が掛からないように、移動の際は一列に並んで静かに行動するように声掛け、見守りを行う。 ・事業所の移転も視野に入れて検討をしていく。
3	・運動	・学習に特化している反面、運動する機会が少ない。 ・事業所内に運動をするスペースが無い。	・土曜日のダンスカリキュラムや、課外活動の運動をメインとするカリキュラムに参加して頂けるよう案内をしていく。 ・時間が取れるときは、近くの公園に行ったり、運動が出来る環境を提供していく。